

岩手

大船渡市・綾里川



東北の 元気な海を 見てください。

夏色と秋模様

Part 02 越智隆治

サーモン
スイムの季節
白鮭の産卵を激写！

撮影＝越智隆治

構成・文＝寺山英樹

協力＝ダイビングショップHBS

特別協力＝モア・プロジェクト・シャパン
デザイン＝Paradise Design

卵に放精している瞬間を
とらえた貴重な写真

燃える秋に山が染まるころ。岩手県の綾里川は、産卵のためにやってくる白鮭の遡上の真っ只中。4年の時を経て、大海原から戻ってきた鮭は、“命の引き継ぎ”をするためだけに、ただただひたすら上流を目指し、やがて役目を終え、死ぬ。

そんな神秘の営みを間近でみようと、2009年から開催されているのがサーモンスイム。しかし、津波によって川はが

れきで埋まり、鮭が遡上することは二度とないのかとすら思われたが、ここでダイバーたちが立ち上がる。いち早く結成された「三陸ボランティアダイバーズ」の活躍により、がれきは片づけられ、津波のあったその年、2011年にも鮭は帰ってきたのである。

鮭が力強く遡上するその光景は、まさに復興を予感させる象徴となり、この土地に住む人にとっても、その見慣れ

たはずの光景は大きな希望になったのだという。

2012年10月上旬。例年よりやや遅れ気味ではあるものの、今年も無事に鮭の遡上が始まった。そして、例年なら静けさを取り戻すはずの12月も半ばの綾里川では、まだ白鮭たちの戦いは続いている。

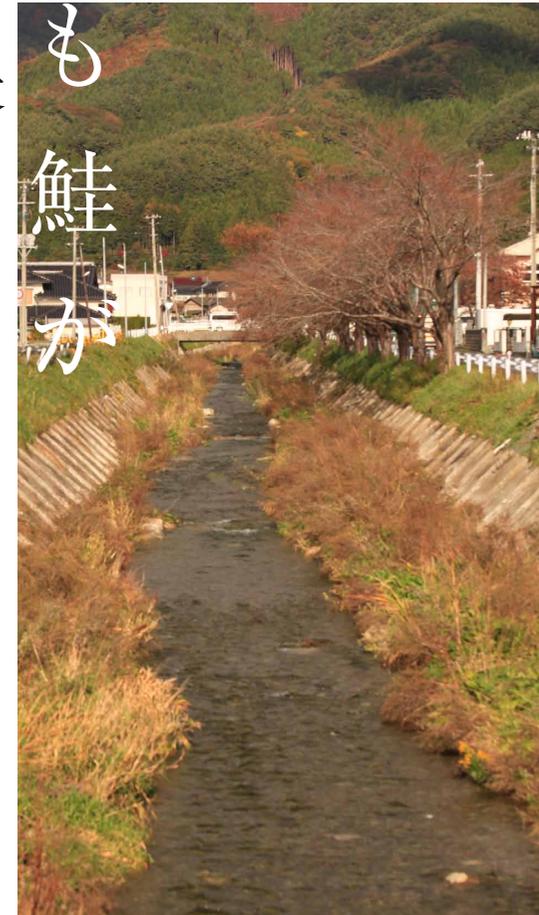
津波にも
負けなかった
鮭の遡上

今年も
鮭が
やって来た！



秋深まるころ、サーモンスイムはピーク

山のふもとを流れる綾里川。この川幅の狭い小さな川が遡上の舞台



サーモンスイムの季節
白鮭の産卵を激写！大船渡市・綾里川

東北の元気な海を見てください。Part 02 越智隆治・秋模様

2012 Winter [The Tohoku Magazine Part2]



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://kuma130kg.com>

関連情報HPへ



取材班が訪れた11月はまさに遡上のピーク。今回、お世話になったダイビングサービスRias (リアス) のくまちゃん (佐藤寛志) は、先述した「三陸ボランティアダイバーズ」の理事長でもあり、川をきれいにした張本人だ。

海水と淡水が混じり合う河口付近から、上流の「みなと橋」までおよそ700mがサーモンスイムの範囲。早速、土手の上から川をのぞいてみると、上流目指して懸命に泳ぐ無数の鮭の姿が！しかし、興奮もつかの間、前日の大雨で水かさ

興奮の2時間 鮭が大接近！

が増え、流れもややあるようで少し不安に思ったが、水量を必要とするサケの遡上のためには、好条件だという。

早速、ドライスーツに着替えて、土手を飛び降り川の中へ。白鮭を驚かさないように、かなり手前から四つん這いで近づき、最後はほふく前進でさらにアプローチ。鮭が産卵する、水底がくぼんだ場所の手前にスタンバイしたら、あとはひたすら待ちの姿勢。

しかし、初日はなかなか思うようにはいかず、産卵は空振り。それでも、ぶつかるほど大接近する鮭に興奮し、「産め、産め」と夢中になっているうちに、いつしか10度の水温も忘れ、2時間が経っていたのでした。「一応、45分って決めてあるんですけどね……」とくまちゃんは苦笑いしつつ、続けてひと言。「でも、誰も守らないんですよ(笑)」。



ウエイトをたっぷりつけて川に寝そべって撮影。じっとしている様子をみて通行人が「死んでいるかと思ったわ」(笑)



サーモンスイムの季節
白鮭の産卵を激写！大船渡市・綾里川

東北の元気な海を見てください。Part 02 越智隆治・秋模様

2012 Winter [The Tohoku Magazine Part2]



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://kuma130kg.com>

関連情報HPへ



01, オスはメスをめぐって威嚇し合う
 02, メスは尾ビレを水底に叩きつけ、卵を産みつけやすいように窪みを作る
 03, メスが産み落とした卵に、口をあぐり開けたオスが精子をかける



卵を産む場所を整えている。オス同士はメスをめぐって背びれを立てながら小競り合い。そんなことを繰り返すこと1時間。どこからともなくオスが集まりだし、メスが口をあぐり開けたらいいよ産卵の合図。そして、ついにメスが産卵! とほぼ同時に、戦いに勝利したオスが放精!!

エネルギーの源・アスタキサンチンたっぷりのオレンジ色に輝くイクラに対して、役目を終えたサケは、体色からオレンジ色が徐々に薄れ、やがて白濁し、体も弱り、その一生の幕を閉じる。その光景は、まさに命の交換。

命をもらったイクラたちは、来年の春ごろに海へと旅立ち、4年後に再び綾里川に戻ってきて、今度は命を渡す役割を果たす。

目の前で繰り広げられる小さい世界の大スペクタクルに心をつかまれ、気づけば4時間、川に寝そべっていた。

04, 川底に散らばる無数の卵。受精してこのように川底の表面に大量に存在することは難しいので、「メス同士の戦いで、噛み付き合っているうちに出てしまったものではないかと思われます」とくまちゃん

生命のスペクタクル

目の前で起こる、

産卵を目撃!

夢中の4時間

サーモンスイム2日目。
 まずは、川沿いを歩きつつ産卵床を見つけることから始まる。

産卵床は周りに比べて窪んでいて、白鮭たちが集まっているのでわかりやすいと言えばわかりやすいのが、くまちゃんの言う“できる窪み”(特に産卵しやすい産卵床)となると、もうお手上げ。

土手を降り、くまちゃんが教えてくれた、できる窪みの上流10メートル手前から近づいていき、5メートルくらいから四つん這いでアプローチ。

「あと2メートルですよ～。はい、そこで寝ちゃいましょう。右斜め前1メートルに窪みがあります」という土手の上のくまちゃんの声を頼りにじり寄る。あとは、窪みの上流側やや前方に陣取り、体が流されないように足で土手をしっかりつかんで、ひたすら彼らのドラマに見入るだけ。

すぐにメスが窪みにやってきて、追従するようにオスが2匹。メスは体を傾けながら尾びれを力強く振って水底をならし、

サーモンスイムの季節
 白鮭の産卵を激写! 大船渡市・綾里川

東北の元気な海を見てください。Part 02 越智隆治・秋模様

それでも鮭は
上流を目指す

サーモンスイムの季節
白鮭の産卵を激写！大船渡市・綾里川

東北の元気な海を見てください。Part 02 越智隆治・秋模様

2012 Winter [The Tohoku Magazine Part2]

ocean+α

More Observation RESEARCH
more
THE MORE PROJECT
JAPAN

©ocean+α ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://kuma130kg.com>

← 関連情報HPへ